



説教要旨「平和へと踏み出そう」

ヨハネによる福音書 20章 19～29節

イエス様が復活された日の夕方、弟子たちはユダヤ人たちを恐れて、家の戸に鍵をかけていましたが、イエス様はその家の中に突然現れました。イエス様を裏切り、逃げてしまった弟子たちを少しも責めることなく、繰り返し「あなたがたに平和があるように」と告げられたのでした。そして弟子たちは、本当に恐れるべき方を知り、罪赦されたものとして送り出されたのです。けれどもこの弟子たちは、それから1週間たってもまだ、家に鍵をかけて閉じこもっていました。それはなぜか。一時は克服したかに思えた恐怖心がじわじわとぶり返してきたのかもしれませんが。そして、もう一つ考えられるのは、トマスへの配慮です。自分がイエス様に直接会って確かめなければ復活を信じないと言い張り、いまだ恐れにとらわれ続けるトマスと共にいて、このトマスにもイエス様が現れてくださることを祈り願っていたのではないかと思うのです。

それはいま、まさにわたしたちが直面している課題です。コロナへの恐れから、礼拝に集えない兄弟姉妹がおられます。何かあったときに責任がとれないと、礼拝自体を自粛する教会があります。そもそもわたしたち自身が、コロナへの恐れを乗り越えることができているかと問われれば、乗り越えてはいないと答えるしかありません。未だに恐れにとらわれているわたしたちに、イエス様は語りかけておられます。「あなたがたに平和があるように」と

復活されたイエス様と直接会うことができたのは、この使徒たちを含めわずかな弟子たちだけでした。その後のキリスト教会に生きた人は誰も、復活されたイエス様を直接見たことはありません。このヨハネ福音書20章の終わりには、ヨハネ福音書が書かれた目的が、「あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。」と綴られています。

イエス様と直接出会うことができない。そんな私たちが「見ないで」イエス・キリストを信じるために、そして私たちが新しい命を受けるために書かれた書物、それがこのヨハネによる福音書なのです。